

多久の論語教育

「論語カルタ」で孔子の教えを学ぶ

豊かな心づくりを目指し、多久の教育の柱とされた孔子の教え「論語」。いつか子どもたちが悩んだ時、論語がその支えになってくれれば、との願いから論語の普及に取り組み、今では多くの子どもたちがすらすらと論語をそらんじる姿が見られるようになりました。その推進に一役買っているのが「論語カルタ」。

子どもたちが夢中になる「論語カルタ」はどうやってできたのか。そしてどのように教育現場で活用されているのか、その様子を「紹介」します。

論語カルタの誕生

平成5年につくられた「論語いろはカルタ」はありましたが、「孔子の里」をかかげ、儒学を重んじる取り組みを展開する多久として、新たに百人一首方式の「論語カルタ」をつくらうという取り組みが始まりました。

財団法人孔子の里と多久市教育委員会プロジェクトを立ち上げ、論語の学びに精通されていた不二見達朗さん、吉木靖範さん、武田耕一さん、市丸悦子さんの協力を得て、当時の尾形善次郎教育長、横尾俊彦理事長のもとで作業が始まりました。

論語全編から「論語カルタ」にふさわしい言葉を選ぶ協議や、親しみやすい絵柄入りカルタ作成に必要な絵の描写打ち合わせも幾度も重ねられ、3年有余の歳月を経て、平成13年3月に「百人一首式 論語カルタ」が完成しました。

子どもたちが「好きな論語の言葉」を持っていけば、いろいろな困難に出会っても、その言葉を糧に乗り越えていけるとの思いや、願いが込められています。子どもたちや地域の学びに活用できる「論語カルタ」、大人のみならず子どもも学んでみませんか。

はやしぐち あきら
林口 彰さん
(元財団法人 孔子の里常務)



先にあった「論語いろはカルタ」のカルタ大会を見ていると、子どもたちは頭の言葉だけを

西 溪 校

西溪校独自の「論語検定試験」を開催。いくつ論語を覚えたかで「達人」・「名人」・「スーパー論語名人」に認定。論語カルタの100個を全て覚え、その意味も言えるとスーパー論語名人に。検定試験は小学部が対象ですが、審査は認定試験に合格した7・8年生の23人が行います。



〈小学校での取り組み〉

中 央 校

児童の玄関に「今日の論語」を書き出し、昼休みの校内放送で「今日の論語の下の句はなんでしよう？」とクイズを出題。さらにカルタ大会直前は復習クイズが出題されるなどの工夫が。また、1年生は8年生が作った「覚え本」をもらい、10個覚える毎にシールが1枚プレゼント。

